

# かまにし

## 第63号

発行 地域力推進蒲田西地区委員会  
編集 地域情報紙編集委員会

### ご存知ですか？ 道塚小学校の土地はお化け屋敷跡?!



道塚小学校の第一期卒業生有志が刊行した『戦禍と青春』（平成一六年四月刊）には次のように書かれています。

——現在の道塚小学校の場所に大きな西洋館の屋敷があり有名だったが、その後時代の革新により家は没落して荒れ果ててしまった。誰も屋敷に入る者が無くなると、鬱蒼とした樹木、寂れた池、日中でも薄暗い庭のため中に入ると迷子になると言われ、以後その屋敷には誰も近づく者がいなくなり、

誰言うとなく、お化け屋敷と言われるようになった。：

また、五〇周年の記念誌である『道塚』（昭和六三年刊）にも同様のことが書かれています。

——手入れをしないので大木がおいしげり、昼でも暗く、しめつた地面には一面にカヤが生えていました。あき地の中に、まわりを雑草でおおわれた大きな池がありました。この池では、わんぱくざかりの子どもでも一人では心細くなり、魚つりもしてはくれません。うっかりすると出口がわからなくなるほど、草木がしげつていました。南側には、ポプラの木が三本そびえたち、その横に二階建ての西洋館がありました。ツタやカズラがからみつき、あれはてていて、だれも住んでいないので、『お化けやしき』とよばれ、こわがられていました。：

道塚小学校が開校した昭和一三年当時の周辺はどんな様子だったのでしょうか？ 大正時代、東京の開港と横浜港の拡張をするため、多摩川の川底を掘って盛んに

砂利を取り、一時は日本一の生産量を誇るほどでした。その中心地が元の原町、古川町です。この仕事で大儲けをして財を成した人（中務利平さん）がここに西洋館を建てて住んでいました。ところが大正六年には多摩川での砂利取りは禁止されてしまいました。

そして大正一二年には関東大震災が起こります。都心から、それまでののんびりした田園地帯であったこの地区に人口が流入して池上・目蒲両電鉄の開通（大正一一・一二年）が人口の増加に拍車をかけました。震災後、矢口村の人口が急に増えて道塚でも学校の誕生が望まれていました。学校を建設するにはある程度のもまとまった土地が必要です。そこで道塚小学校建設期成同盟会をつくり、役場にかかけ合いました。学校の敷地としては、二千坪以上なければなりませんし、矢口小学校に近すぎてもだめなので、地元の人たちの希望を考え合わせて、今の所に決まりました。

今でも道塚小学校の角で自動車整備工場をされている、西洋館所有者のご子孫中務さんに話を伺ってみると、ご先祖は京都のお公家さんで、いつの時代にこちらに出てきたのかわかりませんが、多摩川の砂利採取権を手に入れ、

九〇人以上の人を雇い入れてとても羽振りがよかったそうです。今泉神社に今ある御神輿（写真）を奉納したほどでした。残念ながら戦災などで西洋館の写真は残ってなく、当時の詳しいいきさつはわからないそうです。

（取材 多田委員）

### 蒲田西特別出張所管内

人口	男	32,115人
	女	29,595人
	計	61,710人
世帯	34,677世帯	

平成29年2月1日現在

### わがまちの顔

## CUBE GALLERY

### オーナー 大塚 邦子さん



東急池上線蓮沼駅前のプロムナード蓮沼通りを歩いて三分、ふれあいすぬま（旧蓮沼小学校）という地域活動の拠点のある閑静な住宅街に Cube Gallery（キューブギャラリー）がある。アジアの人々に愛される蓮の花にちなみ、大塚さんの夢は大きく、コンセプトは「蓮沼から世界へ発信！」だそう。

オーナーの大塚邦子（一九四二—）さんは、三〇数年前に画家の加藤正二郎氏に師事し、アクリル絵の具による絵画制作を始め、二科展など都美術館での団体展で活

躍した。途中、介護のため一三年間休筆したが、やがて制約の多い団体展に疑問を抱き、コラージュを主とした自由な作品をグループ展や個展で発表するようになり、コンクールや公募展で受賞三度。その間作品を通じて社会とどう関わっていくかを考え始め、個人ギャラリーの夢が膨らんできた。写真好きのご主人や、師の加藤氏をはじめ建築家とも相談しながらギャラリーを設計。

打放しコンクリート風の外壁、壁面とドアにリズムミカルに並んだ正方形の小窓、特注の木製のスツール等々、そのデザインにはオーナーの考える Cube Gallery のコンセプトが見事に反映された。キューブ（立方体）にはタイ・ベトナム・台湾・中国などアジアを舞台に活躍する加藤正二郎氏を迎え、アジアを中心にユニークな企画展を蓮沼の地から発信したいと意気込む。ギャラリーの名前「キューブ（立方体）」は、ギャラリーの箱のような空間のイメージだけではない。

く、一つの視点にとどまらず様々な視点からものを見るといふピカソのキュービズムの考え方を表し、「独自の視点で皆様方にアートの楽しさをお伝えできる展覧会を企画していきたい」という。

二〇一五年九月オープン。以来「Nocturne」「大塚邦子展」「Autumn Meeting」等を行ってきた。「Autumn Meeting」は五人の女性の個性あふれる作品展であり、織り・混合技法・写真・アクリル画・水彩画を二〇一五年・一六年と二回展示した。

昨年一月の「大串征雄アジア現代絵画コレクション展」に続き、本年は三月に「ミヤンマー現代絵画展」、四月に「アジア現代絵画三人展、レタニツ・ワッサン・加藤正二郎」を予定している。

大塚さんは、日本の美術界が欧米を志向している中で世界の流れはいつの間にかアジアへ変化している、特に最近、日本では数少ないアジアの現代絵画を扱うギャラリーとして海外からの反響が大きくなっていると感じている。この機を逃さずアジアの拠点を構築し、世界に繋げる機会にしたいと考えている。

（取材 森・瀬川委員）

# 新田義興の伝説地を巡ってみませんか？

昨年引き続き「矢口の渡・歌舞伎ふるさとまつり」が、二月五日、今年は大田区民センターで催されました。南北朝時代の武将「新田義興」に  
つた よしおき／一三三一一一三五八」が、この話の主人公です。

義興は天皇を守るために戦い、多くの相手に打ち勝ってきました。戦で多摩川の矢口の渡しから舟に乗った義興を殺してしまいました。すると、義興が死んだ矢口では、不思議なことが起こり始めます。夜になると怪しい光が現れ、雷が落ち、義興を裏切った人は次々とその亡霊に悩まされて狂死します。村人たちは義興の祟りを鎮めるために、義興の墳墓の前に神社を建て、新田大明神として尊崇するようになりました。人形浄瑠璃「神霊矢口渡」はこの事件を扱ったもので、東急「武蔵新田」駅は、この新田大明神（新田神社）に由来します。以下、関係の伝説地を紹介します。

①新田神社 新田義興を祀り義興の墓があります。「太平記」は、「義興討たれし矢口の渡しに夜々光物出で来て往来の人を悩ましける間、近隣の野人村老集まりて義興の亡霊を一社の神に崇めつつ新田大明神として常盤・堅盤の祭礼今に堪えずとぞ承る。不思議なりし事どもなり」と結んでいます。

②十寄（十騎）神社 義興と共に矢口の渡しで戦死した従臣一〇人を祀った塚があります。

③妙蓮塚三昧地藏尊 矢口の渡しで戦死した義興の従臣三人を祀った塚があります。



妙蓮塚三昧地藏尊

た塚があります。  
（下丸子二一一一八）

⑨荒塚 義興の怨念にとりつかれ七日で悶死した江戸遠江守を葬る塚。荒塚と呼ばれ光明寺にあります。

（同前）  
⑩義興手植えの桜 鶉の木の鎌倉道沿いに石神（おしやもじさま）があり、義興手植えと伝える神代桜があります。背後の小円墳から義興供養板碑が発見されています。

（南久が原二一六一一〇）  
⑪原田氏碑銘 嶺の名主原田家墓碑銘文は、原田氏の土着理由を義興との主従関係としており、主人義興を矢口の渡しで失い、この地に潜み再起を計ろうとしたが時を得ないまま百姓になったといま

す。  
（西嶺町二二二）  
⑫義興の本陣 沼部の密蔵院は矢口の渡し事件時、本陣だったという言い伝えがあります。

（田園調布南二四一一八）  
⑬義宗の隠れ家 新田義貞の嫡子は義頭、次男は義興で義宗は第三子です。義宗の隠れ家について、久が原の名主中島家に伝承があります。義宗は矢口の渡し事件には参加していませんが、正平七年人見ヶ原合戦では義興と共に足利尊氏を敗走させました、隠れ家が久が原なので義興伝説圏に結びつきます。  
（久ヶ原二一三〇四）  
⑭女塚 女塚神社境内墳で、義興

の侍女少将局の塚と伝えられています。この女性には江戸・竹沢らの謀略の手先となって義興に仕えましたが、次第に義興に心を寄せ始めたため、密計の破綻を恐れた竹沢によって暗殺されました。その哀れさに里人の手で埋葬されたといわれています。

（西蒲田六一三一一）

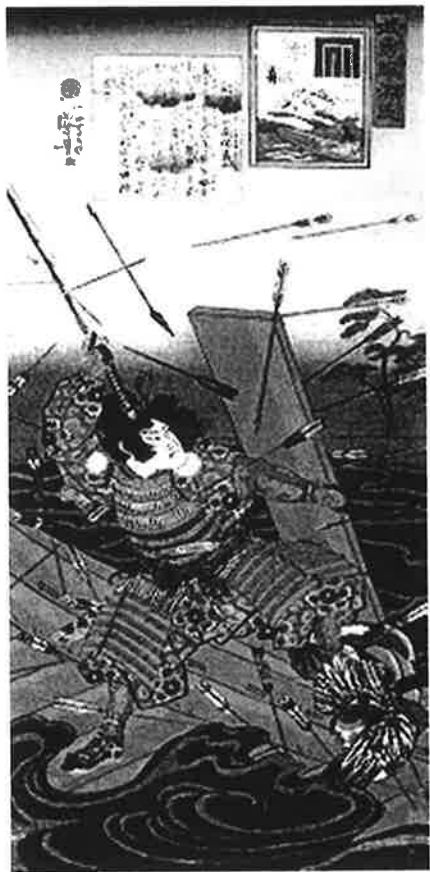


女塚

⑮雷除信仰 地元の延命寺では雷除け・子育ての十日講といつて人々が集まり、戦前までは地藏尊のお祭りを続けてきました。光明寺の雷留観音といひ、雷除信仰の浸透が見られる地域です。

（矢口二一六一一七）

参考 大田区の文化財（大田区教育委員会・昭和三九年）  
ほか  
（取材 大良委員）



矢口渡合戦にて義興戦死図（歌川国芳画）

④頓兵衛地藏 義興主従一四人を乗せ矢口の渡しで舟を沈めた船頭が、後に義興供養のために立てた地藏。一名とろけ地藏。「神霊矢口渡」の芝居では船頭頓兵衛の名が付けられています。

（下丸子二一一一九）

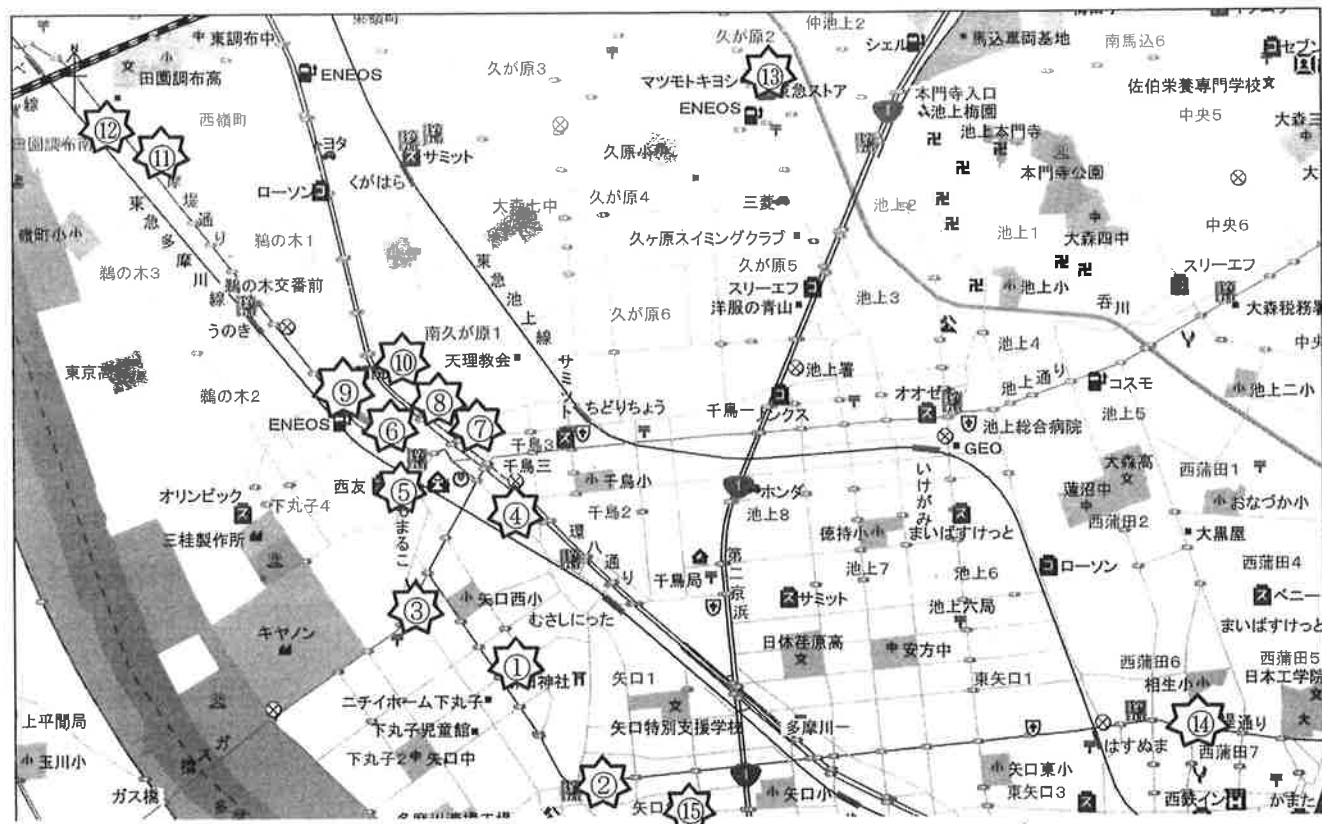


頓兵衛地藏

⑤矢口の沼地 底なし沼と恐れられました。往時の矢口の渡し淵だともいいます。古川古松軒「四神地名録」（享保六年）に「源義興死有之所は矢口と此池（光明寺池）の辺と云う事也」とあります。

⑥光明寺池 多摩川古流の現存す

る河跡池。旧矢口の渡しはこの辺ともいいます。  
（鶉の木一一三一一〇）  
⑦灰塚 延文三年一〇月一〇日矢口の渡しで義興謀殺に手柄をたてた江戸遠江守が恩賞地へ向かう途中、同月二三日矢口の渡しにさしかかると雷火と化した義興の怨霊に報復され、辻堂に逃げ込んだものの、それより七日間溺れた真似をして死んだと「太平記」にあります。付近は雷火に焼き払われたので人々は灰をかき集め、供養に築いたのが灰塚です。  
（千鳥三一一一六原田邸内）  
⑧辻堂（観音堂） 前記江戸遠江守が逃れた辻堂があった所といえます。この折、辻堂にあつて雷火より辻堂を守った「雷留観音」は、今も光明寺に祀られています。  
（鶉の木一一三一一〇）



新田義興伝説分布図